

# 仙台平野を襲った3.11の大津波

— 仙台市荒浜地区と名取市閑上地区に注目して —



津波により孤立した荒浜小学校では、生徒や教師、地域住民が屋上で助けを待った。

東日本大震災 仙台市震災記録誌～発災から1年間の活動記録～，仙台市，平成25年3月より引用

# 仙台市若林区荒浜地区



みやぎの海辺 思い出の風景 2011. 3. 11を境に  
河北新報社, 2012. 3. 5. 発行による.

## 荒浜小学校と地区住民による事前の災害対策

海に近く、津波危険地域や要避難地域に指定されていたこともあり、毎年6月には、地震と津波を想定した避難訓練を、地域をあげて行っていた。訓練は、ヘリコプターのホバリングによる人命救助や物資搬送も盛り込むほど本格的だった。

2010年2月のチリ沖地震に伴い、大津波警報が発令され、地域住民は避難行動をとった。このときの避難経験を通して、地域住民から次のような要望が出される。「①高齢者は、一時避難場所である荒浜小学校に避難するのがやっとなのである。②正式な避難所である七郷小学校は、4キロ程度離れており、移動するのは困難である。③高齢者、特に足の不自由なものにとって3、4階まで上がるのは大変である。④学校前の市道は、渋滞を起こしスムーズに通行できない状態であった。」

荒浜小学校の場合、特筆に値するのは、住民からのこの要望を、小学校と地域行政とが真剣に受け止め、改善を実行した点である。荒浜小学校と行政とは、高齢者の移動の難しさと市道の渋滞を考慮し、「正式な避難所」である七郷小学校への避難という枠組みを見直し、荒浜小学校を本格的な避難所に格上げする。津波が予想される場合は荒浜小学校に「籠城する」という戦略を確定し、「災害備蓄を約1.5倍に増やし、800名の住民が最低3日間生活できる量」を確保した。しかも、体育館は津波による水没が想定されるため、毛布や扇風機などの災害備蓄を体育館から校舎3階へと移動する。

考えさせられるのは、2010年2月のチリ沖地震に伴う大津波警報とそれによる避難の受け止め方である。先に記したように、予想を外した大津波警報への批判が世間一般の風潮だった。こうした風潮が世間を覆うなか、荒浜小学校は、避難経験を振り返り、問題点を洗い出し、未来に活かしていた。(以下略)

### 3.11津波災害に直面した荒浜小学校の実際

地震発生時、荒浜小学校では、1年生が下校を終え、2年生は下校途中だった。だが、地域全体で荒浜小学校を避難所にすることを決めていたため、下校した子どもも保護者と共に、荒浜小学校に即座に避難した。(途中略) 荒浜小学校では、児童引き渡しエリアと住民の受け入れエリアとを分けることで混乱を少なくし、改善した対応マニュアルに従って、避難住民を2階以上の教室に「町内会ごと」に割り当て、昇降口では、校長と教頭と教務が、駆けつけてくる地域住民に避難教室を指示した。想定の間密さに裏づけられた当日の手ぎわのよさである。(途中略) 津波襲来後は、校舎3、4階に部屋を再度割り当て、各町内会長に呼びかけ、避難所運営委員会を立ち上げる。合計で320人(住人233人、児童71人、職員16人)の避難を確認する。(以下略)

# 名取市関上地区



2007年5月



2011年4月17日



2011年4月17日

みやぎの海辺 思い出の風景 2011. 3. 11を境に  
河北新報社, 2012. 3. 5. 発行による.

NHKスペシャル取材班

行動  
マップ

# 巨大津波

その時ひとは  
どう動いたか

# 巨大津波

その時ひとはどう動いたか

被災  
マップ

NHK  
スペシャル  
取材班

岩波書店

岩波書店

## 行動マップ

542人に対するインタビューから2,131人の行動を把握できている。そのうち●印は詳細が確認できた600人分のデータに基づいて地震発生から津波襲来までの1時間10分の行動を記録したものである。



## 閑上2丁目の被災マップ

青色：犠牲者ゼロの家庭

黄色：犠牲者が発生した家庭

赤色：全員が犠牲者となった家庭

NHKスペシャル「巨大津波 その時ひとはどう動いたか」, 2011.10.2. 放送

NHKスペシャル取材班：巨大津波 その時ひとはどう動いたか, 岩波書店, 2013.3.28.